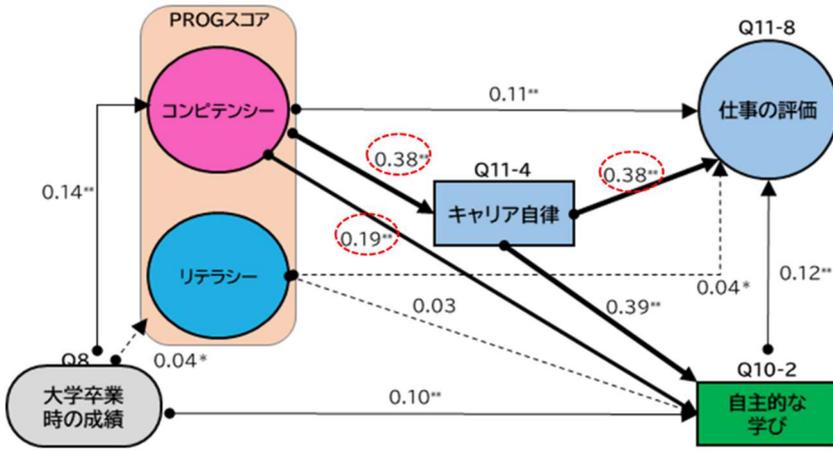


【別紙資料】

表① 仕事評価モデル（大学卒業時の成績から仕事の評価まで）



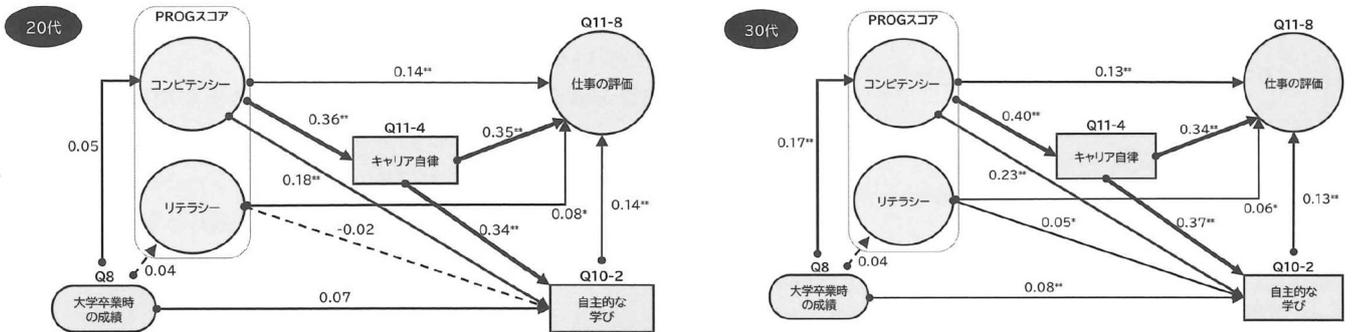
「大学卒業時の成績」は「リテラシー」より「コンピテンシー」への影響が強いと言えます。

「コンピテンシー」から直接「仕事の評価」につながるパス\*もありますが(パス係数が 0.11)、「コンピテンシー」から「キャリア自律」へのパスは 0.38、「キャリア自律」から「仕事の評価」へのパスも 0.38 と相対的に大きいことがわかります。

これは、「コンピテンシー」が直接「仕事の評価」を高めるというより、いったん「キャリア自律」を高めることに影響し、「キャリア自律」が仕事評価を高めるという構造になっていることを示しています。また、「コンピテンシー」の高さは、「自主的な学び」も増加させることがわかります(パス係数 0.19)。

※パス:因果関係の方向を示す矢印。数値(パス係数)が大きいほど影響が強い

表② 年代別の仕事評価モデル



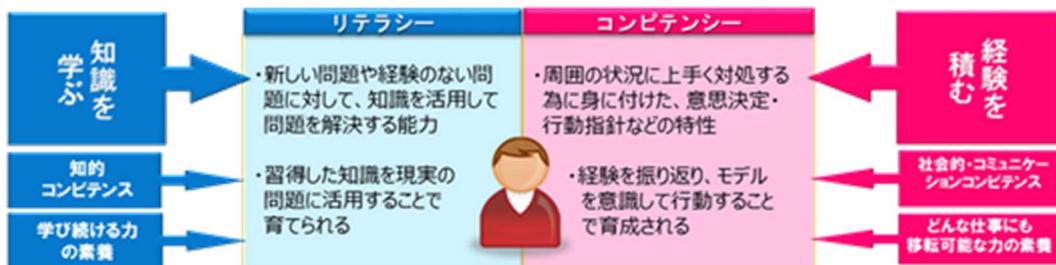
20代では、「大学成績→自主的な学び」「大学成績→リテラシー」「大学成績→コンピテンシー」のパスは有意ではありません。30代になると、「大学成績→自主的な学び」「大学成績→コンピテンシー」のパスが有意となり、その影響は40代でさらに強まります。

これらのモデルからは、大学成績が複数のパスを通じて、仕事評価に影響していることが読み取れます。大学時代の成績は、単にその時点(卒業時や在学中)の評価というだけでなく、「学びぐせ」ともいうべき行動特性を代表しているものと考えられます。学生時代に「学びぐせ」を身につけた人は、その後も自主的に学び続け、「学びぐせ」のない人(≒大学成績の良くない人)との差が、コンピテンシーやキャリア自律などの面で拡大していくものと考えられます。

また、リテラシー・コンピテンシーとの関連から、「大学の教育は認知的領域であるリテラシー以上に、態度・姿勢まで含めた非認知能力であるコンピテンシーの育成に寄与している」といえることが言えます。

■ PROG (プログ) とは

PROGとは、社会で求められる汎用的な能力・態度(以下、ジェネリックスキルといいます)を測定するために、開発されたアセスメントです。PROGでは、学生のジェネリックスキルを「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面から測定します。知識をもとに問題解決にあたる力である「リテラシー」では知識の活用力や学び続ける力の素養を、経験から身につけた行動特性であるコンピテンシーでは、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみることができます。



■ 株式会社 ピックアンドミックスについて

「努力したことが報われる社会」を作ることを理念に、PROGをはじめとするキャリア開発に関連するテストの研究開発、製作、運営を通して、新しいキャリア教育サービスの構築をめざし設立されました。

ホームページ <https://pickandmix.co.jp/>